

ピラクロニル剤 ピラクロン (1キロ粒剤 / フロアブル)	取扱メーカー： 協友アグリ，ホクサン 原体メーカー： 協友アグリ
成分： ピラクロニル……………1.8% (粒剤)，3.6% (フロアブル)	性状： 類白色細粒 (粒剤) 類白色水和性粘稠懸濁液体 (フロアブル) 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

〈共通〉

- ノビエだけでなく，コナギを始めとする広葉，カヤツリグサ科など幅広い雑草に高い効果を示す。
- スルホニルウレア抵抗性雑草に対しても，幅広く高い効果を示す。
- 効果の発現が非常に速い。
- 温度による効果の変動が少ない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈共通〉

- 共通注意事項の5．水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。
- 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので，ノビエの1.5葉期までに時期を失しないように散布する。
- 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので必ず適期に散布する。
- オモダカ，クサネム (粒剤)，クログワイ，コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので，必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する (但し，オモダカは有効な前処理剤又は後処理剤)。

雑草名	散布適期	
	粒剤	フロアブル
ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ	発生始期まで	
ヒルムシロ	発生期まで	
オモダカ	発生前～発生始期	発生始期まで
クログワイ コウキヤガラ	発生前	
クサネム	本葉1葉期まで	—

〈粒剤〉

- 直播水稲で使用する場合には下記のこと

- 稲出芽前に使用する場合はできるだけ落水状態にして散布し，確実に出芽が確認できるまでは入水しない。
- 稲出芽時に湛水状態になると苗立ち数の低下を生じる場合があるので注意する。
- 稲出芽始期以降は湛水状態で散布する。
- 表面は種 (鉄コーティング等) では葉害を生じるので土中は種で使用する。
- 稲の根が露出した条件では葉害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- 後処理剤との組み合わせで使用する。

〈フロアブル〉

- 直播水稲で使用する場合には下記のこと

- 使用量に合わせ薬液を調製し，使いきる。
- 稲出芽前は落水状態で散布し確実に出芽が確認できるまでは入水しない。
- 稲出芽時に湛水状態になると苗立ち数の低下を生じる場合があるので注意する。
- 稲出芽始期以降は湛水状態で散布する。
- 稲の根が露出した条件では葉害を生じるおそれがあるので使用をさける。

○表面は種（鉄コーティング等）では葉害を生じるので土中は種で使用する。

○後処理剤との組み合わせで使用する。

●ひえ（水田移植栽培）に使用する場合、ひえの初期生育を抑制することがあるので苗の生育状況を良く観察し、活着を確認してから使用する。

【薬効・薬害等の注意】……………

〈共通〉

●共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。

●いぐさの栽培予定田では使用しない。また本剤散布後の田面水を他作物に灌水しない。

●適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（いぐさ、れんこん、せり、くわい）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

〈共通〉

●藻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

〈粒剤〉

●無人ヘリコプター散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

〈フロアブル〉

●散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。

【適用と使用法】……………

①ピラクロン1キロ粒剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ヒルムシロ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植時	1 kg	田植同時散布機で施用	1回 ※
		植代後～移植7日前 又は移植直後～ ノビエ1.5葉期 但し、移植後30日まで		湛水散布 又は無人ヘリコプターによる散布	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ	は種時		は種同時散布機で施用	
		湛水直播のは種直後～ 稲出芽前 但し、収穫60日前まで		落水散布 又は無人ヘリコプターによる散布	
		湛水直播の稲出芽始期～ ノビエ1.5葉期 但し、収穫60日前まで		湛水散布 又は無人ヘリコプターによる散布	

※ピラクロニルを含む農薬の総使用回数：2回以内

②ピラクロンフロアブル

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		使用方法	本剤の 使用回数
			薬量	希釈水量		
移 植 水 稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ヒルムシロ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植時	500 ml	—	田植同時散布機で施用	1 回 ※
		植代後～移植 7 日前 又は移植直後～ ノビエ 1.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで			原液湛水散布又は水口施用	
直 播 水 稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ	湛水直播のは種直後～ 稲出芽前 但し、 収穫 60 日前まで		100 ℓ	落水散布	
		湛水直播の稲出芽始期 ～ノビエ 1.5 葉期 但し、 収穫 60 日前まで			湛水散布	
ひ え (水田移植栽培)		移植後 5 日～ ノビエ 1.5 葉期 但し、 収穫 90 日前まで		—	原液湛水散布	2 回以内 ※

※ピラクロニルを含む農業の総使用回数：2 回以内